

胃がん

術後連携ノート



中東遠総合医療センター

CHUTOEN GENERAL MEDICAL CENTER

〒436-8555 静岡県掛川市菖蒲ヶ池1番地の1

TEL : 0537-21-5555 (代表)

FAX : 0537-28-8926

HP : <https://www.chutoen-hp.shizuoka.jp>

もくじ

はじめに	1
退院後の日常生活	2
手術後の日常生活	2
術後補助化学療法について	8
抗がん剤による副作用	8
退院後もこれだけは忘れずに	11
胃がん術後連携ノート	14

はじめに

【連携パス】とは、地域のかかりつけ医と中東遠総合医療センターの医師が、あなたの治療経過を共有できる「診療計画表」のことで、「胃がん治療ガイドライン」に基づいて作成してあります。「術後連携ノート」を活用し、かかりつけ医と中東遠総合医療センターの医師が協力して、あなたの診療を行います。

この「術後連携ノート」を活用することで、地域のかかりつけ医と中東遠総合医療センターとが協力し、患者さんの視点に立った安心で質の高い医療を提供する体制を構築することを目指しています。また、患者さんにとっても待ち時間などの負担軽減や、ご自身の診療計画や経過の把握、かかりつけ医の診療による不安の解消といったメリットにもつながります。



緊急を要する場合、休日や夜間等かかりつけ医を受診できない場合

地域連携パス患者です。
とお伝えください

中東遠総合医療センター TEL 0537-21-5555（代表）までご連絡ください。

退院後の日常生活

からだの調子に自信がついたら、仕事に復帰。
外出も旅行も、何でもできます。



手術後の日常生活

胃がん手術後の後遺症について以下のような種類があります。

- ①腸閉塞
- ②ダンピング症候群
- ③貧血
- ④骨粗鬆症
- ⑤逆流性食道炎
- ⑥胃手術後胆石症
- ⑦小胃症状

それについて解説いたします。

①腸閉塞

手術したあとは、ほとんどの場合、お腹の中で腸があちこちにくっつきます。その結果、腸が曲がったり狭くなることによって腸閉塞が起こります。狭くなったところに食べ物がつまると、便もガスも出なくなります。ときには腸がねじれて、腸の流れが閉ざされてしまうこともあります。

[症状]

一般的に悪心、嘔吐、排便・排ガスの停止、腹痛がみられます。時には、腸がねじれて血流が途絶え、時間とともに腸が壊死（腸管の細胞が死滅してしまうこと）して、腸に穴が開いたりして大変危険です。

吐き気や嘔吐に加えて痛みが強い場合には、必ず医師の診察を受けて下さい。



[治療法]

多くの場合には、絶食していると自然に治るのですが、ときには癒着（本来は分離しているはずの臓器・組織面が、外傷や炎症のためにくっつくこと）を剥がしたり、ねじれを治す手術が必要なことがあります。

②ダンピング症候群

ダンピング症候群とは・・・

胃を切除すると、今まで胃の中で攪拌（かき回す）されて少しずつ腸に移動していた食物が、一度に急に腸へ流れ込む状態になります。そのために起きる不快な症状がダンピング症候群といわれるものです。食後 30 分以内に起こる場合（早期ダンピング症候群）が多いですが、食後 2~3 時間で起こる場合（後期ダンピング症候群）もあります。

[症状]

早期タンピング症候群：食後 30 分以内に発汗、めまい、脈拍が上がるなどの全身症状と恶心、腹部膨満感、下痢などの消化器症状が出現します。

後期ダンピング症候群：食後 2~3 時間後に一時的に低血糖になり、汗が出る、脈拍が増える、めまい、脱力感などの症状を呈し気を失ってしまうこともあります。

[治療法]

早期ダンピング症候群：安静により数分～數十分で改善します。しかし、顕著な場合は抗セロトニン薬や粘膜麻酔薬を投与することもあります。

後期ダンピング症候群：糖質の補給が必要になります。ブトウ糖の摂取や、ビスケットやあめ玉、氷砂糖をとったり、甘い飲み物を飲んで下さい。予防するには、食後 2 時間あたりに何かおやつを食べることが有効です。



③貧血

貧血とは・・・

胃の切除により、鉄分やビタミンB₁₂が吸収されにくくなるために貧血が起こります。前者は、鉄欠乏性貧血、後者は巨赤芽球性貧血といいます。

● 鉄欠乏性貧血

手術後数か月から出現することがあります。治療は、鉄剤の補充を行います。

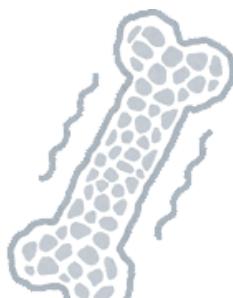
● 巨赤芽球性貧血

ビタミンB₁₂は体内に蓄積されており、数年間はその蓄積したビタミンB₁₂でまかなうことができます。しかし手術後4~5年以降には蓄積がなくなり、巨赤芽球性貧血を発症することができます。治療法は、ビタミンB₁₂の注射または内服による補充です。定期的に血液検査をして、不足していれば補給する必要があります。

④骨粗鬆症

骨粗鬆症とは・・・

胃の手術をすると、カルシウムの吸収が悪くなるため骨のカルシウムが減少して骨が弱くなります。ときに、骨折したりします。定期的に骨のカルシウムの濃度(骨塩量)を測定(レントゲンなどで簡単に測定できます)し、必要であればカルシウムや、ビタミンDの投与が望ましいとされています。普段からカルシウムの補給には十分気を付けましょう。



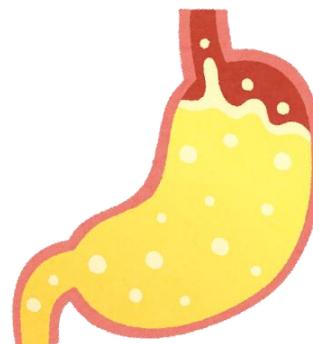
⑤逆流性食道炎

逆流性食道炎とは・・・

食道と胃のつなぎ目にある逆流防止機構が胃切除により失われる、もしくは弱くなることで、消化液が食道に逆流し炎症を起こした状態をいいます。一般的な(手術をしていない)逆流性食道炎は胃酸の逆流が原因ですが、胃切除後は胃酸分泌能が低下もしくは消失しており、胆汁(腸液)が食道まで逆流し炎症を起こすことがあります。

[症状]

代表的な症状として、胸やけや食べ物が詰まった感じなどがあります。消化液が口まで逆流すると、胆汁の苦い味がします。酸っぱい味であれば胃酸の逆流です。



[治療法]

食後すぐに横にならない、食後2・3時間あけて就寝するなどの生活習慣の工夫が必要になります。症状が強い場合、胆汁逆流による逆流性食道炎に対しては蛋白分解酵素阻害薬を、胃酸による食道炎に対しては胃酸分泌抑制薬を使用します。また逆流を起こさないように腸管蠕動を改善する目的で消化管運動改善薬なども使用されます。

⑥胃手術後胆石症

胃手術後胆石症とは・・・

胃の手術の時には、しばしば胆のうの神経が切れてしまします。そのために胆のうの動きが悪くなり、あとで胆のうに炎症を起こしたり、胆のう内に結石ができることがあります。

胆のうとは・・・

胆のうは肝臓でできる胆汁という黄色い液をためたり濃縮したりする、なすびのような形をした臓器です。胆のうは十二指腸に繋がっており、脂肪を含んだ食物が十二指腸に流れてきた時には、ためていた胆汁を十二指腸に放出することによって、消化・吸収を助けます。

⑦小胃症状

小胃症状とは・・・

胃を切除したために胃が小さくなり、あるいはなくなることによつて起こってくるすべての症状を小胃症状といいます。

[症状]

食事が少ししか入らない、あるいは、すぐにお腹が一杯になるといった症状が最も一般的です。手術を受けられたほとんどの方が経験される症状です。

[治療法]

お腹を順応させることが大切になります。そのためには、食事のとり方が大切です。1回の食事量を減らし、1日5~6回に分けてとるようにして1日の必要量をとっていきましょう。^ア具体的には、1日3回の食事+プリンやビスケットのおやつを少量ずつ2~3回とるようにするとよいでしょう。

術後補助化学療法について

がんを手術で全部切除できたように見えても、その時点ですでに目に見えないがん細胞がほかの臓器に移動している可能性があり、時間がたってから再発として見つかることがあります。そこで、目に見えないがんを根絶することを目的として、抗がん剤の投与が行われます。これを術後補助化学療法といいます。

抗がん剤による副作用について

抗がん剤による副作用について説明します。抗がん剤はがん細胞のように、はやく増える細胞を攻撃しますが、正常な細胞にも薬の影響が出てしまうため、それが副作用として現れます。

よく見られる症状には以下のようないわがありますが、使用する薬によっては、これら以外の副作用が出現することもあります。

- ①吐き気・嘔吐
 - ②だるさ、貧血
 - ③感染
 - ④口内炎
 - ⑤下痢
 - ⑥脱毛
- など

次ページから、それについて解説します。

①吐き気、嘔吐

抗がん剤による吐き気・嘔吐は、胃や腸の粘膜や脳の嘔吐中枢に抗がん剤が影響し出現します。症状は人や抗がん剤により様々で、軽い吐き気を感じるだけの人もいますし、投与終了数時間後から24時間にわたり激しく嘔吐する人もいます。また、数日間、続くこともあります。人によっては前回の投与時の嘔吐の経験から、条件反射的に薬を投与する前から吐き気を感じてしまう人もいます。

②だるさ、貧血

抗がん剤治療中にだるさが出てきます。原因は明確ではありませんが、抗がん剤に対する体の反応により余分なエネルギーを使用することなどが考えられています。また、ほとんどの抗がん剤は血液を造るために重要な働きをする骨髄を障害する作用があります。したがって、抗がん剤治療を何回か繰り返すと、全身に酸素を運搬する赤血球が不足し、貧血状態になることがあります。

③感染

抗がん剤治療による骨髄障害のため、白血球が減少します。白血球が減少すると細菌と闘う力が弱くなり、非常に感染しやすい状態になります。このため、菌血症(血液中に細菌が侵入した状態)をはじめ、腸炎、肺炎などの感染に対する注意が必要です。

④口内炎

抗がん剤の副作用で口内炎ができることがあります。また、化学療法中は細菌に対する抵抗力が弱くなっているため、口の中が感染し、重大な病気を引き起こすこともありますので、気を付けて下さい。

⑤下痢

抗がん剤は腸の粘膜に影響を与えるため、下痢をおこすことがあります。1日に何度も下痢をする日が続く場合、あるいは差し込むような腹痛があるような場合には、かかりつけ医の診察を受けて下さい。

⑥脱毛

脱毛はよくみられる副作用のひとつですが、治療が終われば毛は元どおりに生えてきます。

治療開始後すぐにみられるものではありませんが、髪が根元で切れるようになり、頭皮も柔らかくなるのが症状の出始めです。症状の出方は人により様々で、徐々に薄くなる人もいれば、自分で自分の頭髪をひっぱると大量の頭髪がとれるようになってショックを受ける人もいます。

回復は比較的早く、治療終了後しばらくすると生え始め、通常は約6か月で回復します。

退院後もこれだけは忘れずに

定期的な診察や検査を受けましょう

手術後 **5年間**、がん再発チェックのために定期的な診察や検査を行います。

なお、定期検査は胃がんを対象としているものです。他の病気をカバーするものではありませんので検診や人間ドックは別途受けるようにしてください。ご質問があれば、中東遠総合医療センター担当医にお気軽にご相談下さい。

定期的な
診察や検査を



毎月1回、自己検診を続けましょう。

どんな病気でも早期に発見して、早期に治療することが大切です。毎月1回、日を決めて、ご自分で症状をチェックしてください。気になるところがあったら、病院主治医又はかかりつけ医に相談してください。



処方された薬は忘れずに服用しましょう

病院で処方された薬は、手術後の状態を安定させるためや手術の治療効果を高めるためにあなたに必要と判断して担当医が処方したものです。薬を服用するように医師から指示された場合には、指示された通りに忘れずに正しく服用してください。

副作用がある場合には、医師に申し出てください。



悩みを一人で抱える必要はありません

あなたが安心して治療や検査を続けていくためには、ご家族や担当医・看護師とコミュニケーションをとって、気持ちを共有することが大切です。

不安になることや悩むこともあるかと思います。自分からに閉じこもらず、不安や心配は担当医や看護師、中東遠総合医療センターのがん相談支援センターにお気軽にご相談下さい。



MEMO

胃がん術後連携ノート（0か月～1年目）

開業医

医院名 _____

医師名 _____

受診日 年 月 日

□採血
CEA _____

CA19-9 _____

自覚症状 □なし□あり

受診日 年 月 日

□採血
CEA _____

CA19-9 _____

自覚症状 □なし□あり

手術(0か月)

1～2か月

4～5か月

中東遠

カルテ番号 _____

患者氏名 _____

生年月日 年 月 日

病 名 _____

手術日 年 月 日

最終診断

T () N () M ()

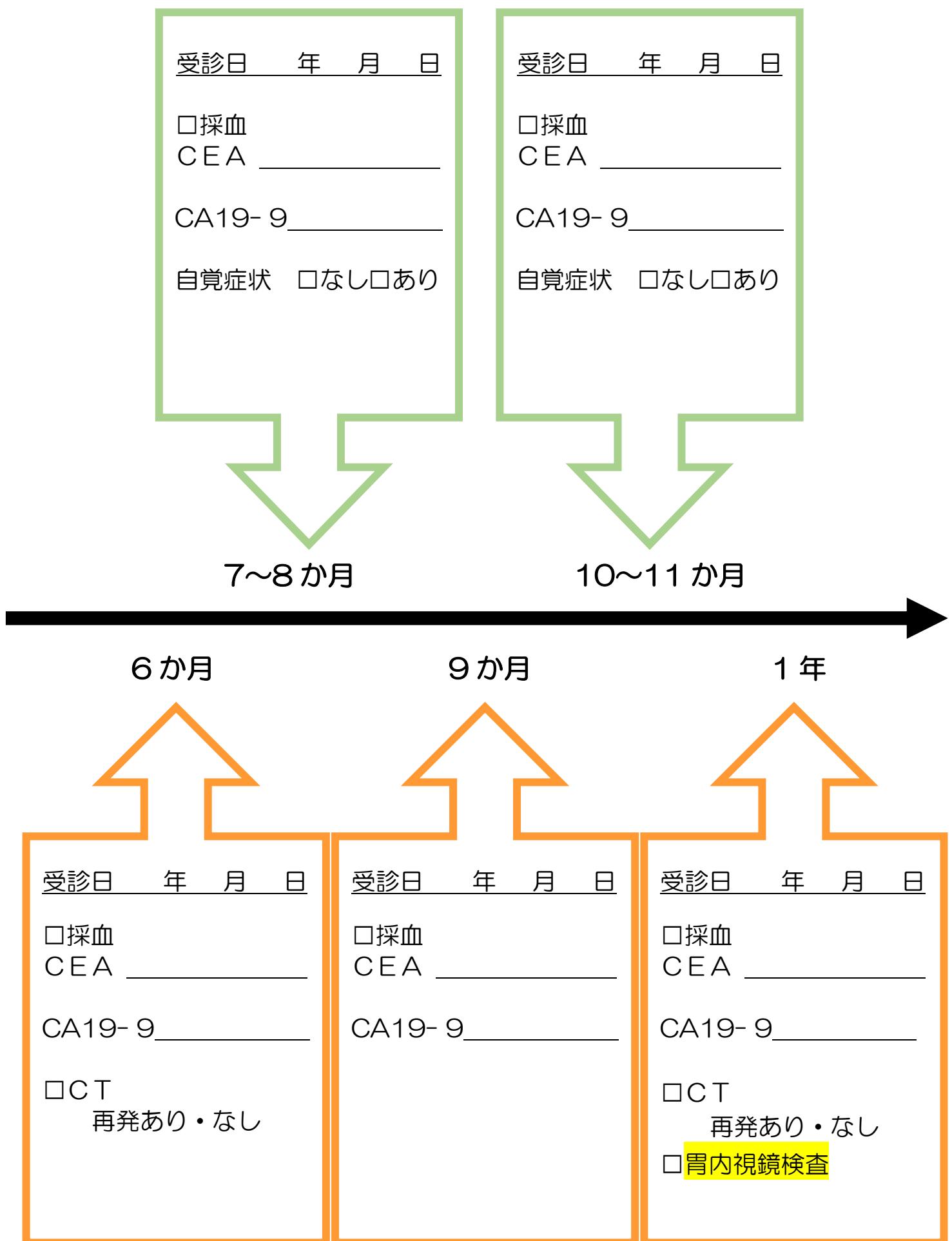
Stage ()

3か月

受診日 年 月 日

□採血
CEA _____

CA19-9 _____



胃がん術後連携ノート（1年～2年目）

開業医

医院名 _____

医師名 _____

受診日 年 月 日

採血
CEA _____

CA19-9 _____

自覚症状 なしあり

受診日 年 月 日

採血
CEA _____

CA19-9 _____

自覚症状 なしあり

1年1～2か月

1年4～5か月

1年3か月

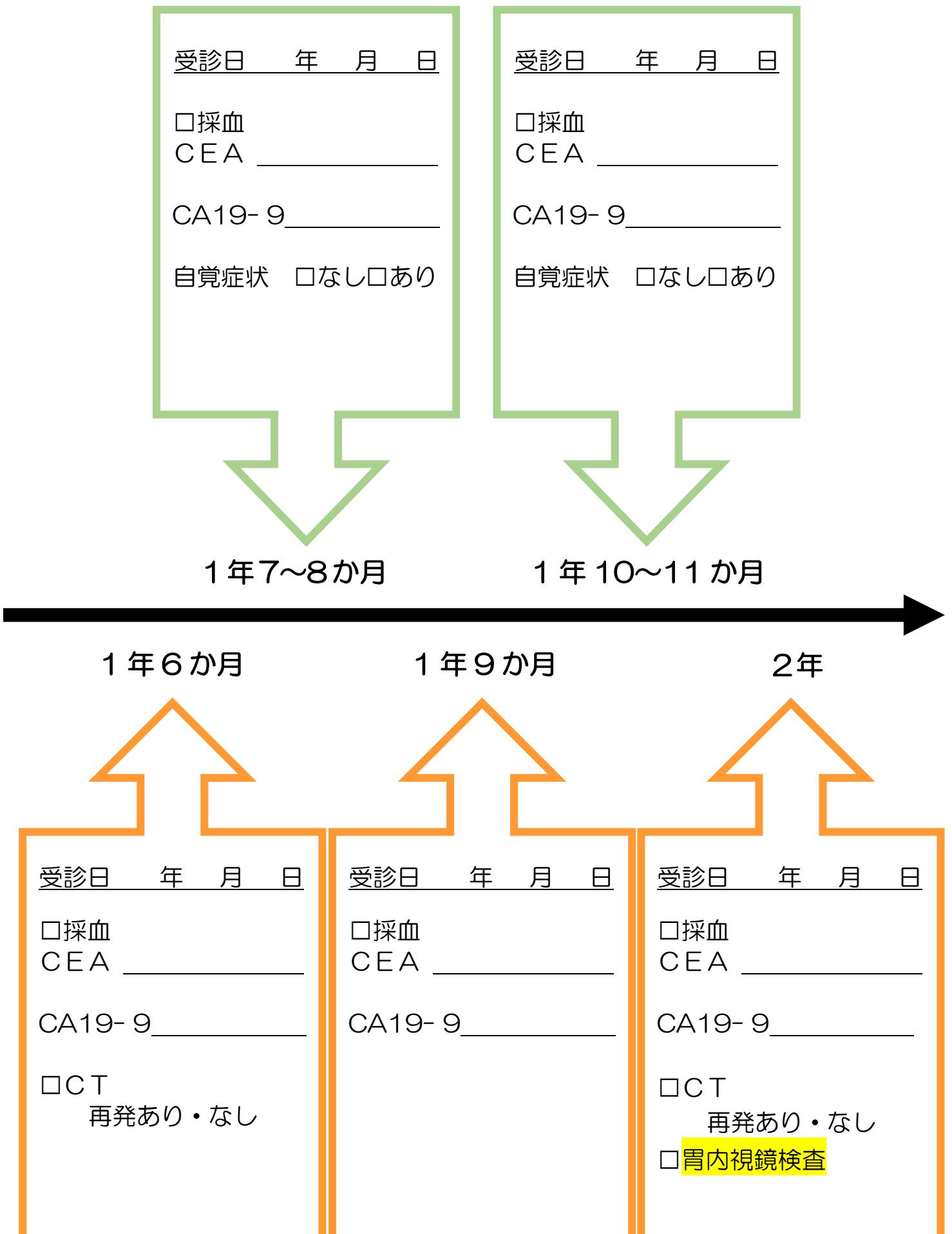
中東遠

患者IDラベルシール _____

受診日 年 月 日

採血
CEA _____

CA19-9 _____



胃がん術後連携ノート（2年～4年目）

開業医

医院名 _____

医師名 _____

受診日 年 月 日

採血
CEA _____

CA19-9 _____

自覚症状 なしあり

受診日 年 月 日

採血
CEA _____

CA19-9 _____

自覚症状 なしあり

2年1～5か月

2年7～11か月

2年6か月

中東遠

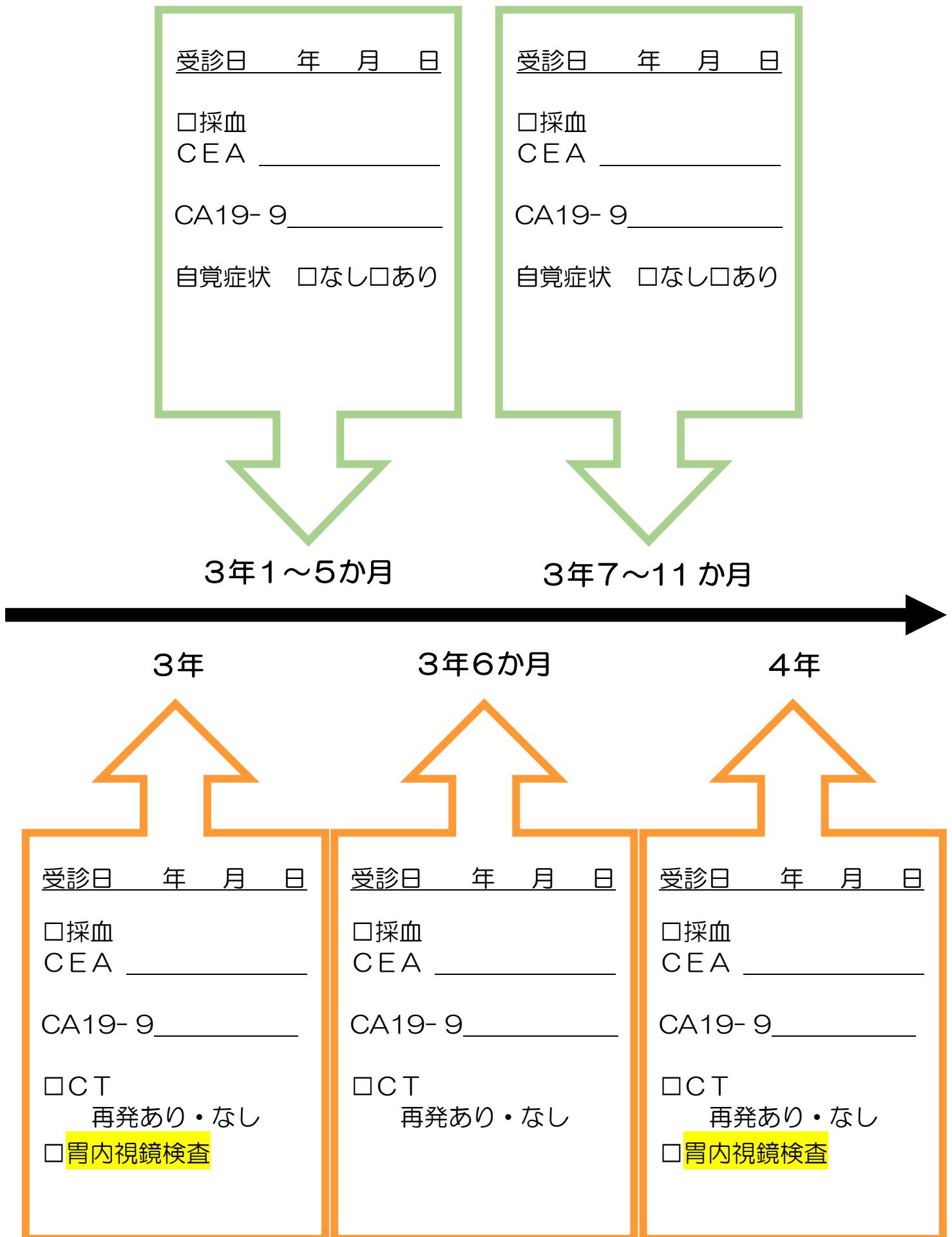
患者IDラベルシール添付 _____

受診日 年 月 日

採血
CEA _____

CA19-9 _____

CT
再発あり・なし



胃がん術後連携ノート（4～5年目）

開業医

医院名 _____

医師名 _____

受診日 年 月 日

採血
CEA _____

CA19-9 _____

自覚症状 なし あり

4年1～5か月

4年6か月

中東遠

患者IDラベルシール添付 _____

受診日 年 月 日

採血
CEA _____

CA19-9 _____

CT
再発あり・なし

受診日 年 月 日

採血

CEA _____

CA19-9 _____

自覚症状 □なし□あり

4年7～11か月

5年

受診日 年 月 日

採血

CEA _____

CA19-9 _____

CT

再発あり・なし

胃内視鏡検査

がん相談支援センターのご案内

患者さんが安心して療養に専念していただけるように病院内に相談窓口を設けております。がんに関する様々な悩み、不安、心配ことの相談はがん相談支援センターでお受けしております。

場 所：1階がん相談支援センター⑬番

時 間：8時15分から16時00分
(土・日・祝日と年末年始を除く)

電話番号：0537-28-8159(直通)

応対者：看護師・医療ソーシャルワーカー・臨床心理士

※予約不要ですが、応対者が面談中ですと、お待ちいただくことがありますので、事前にお知らせいただければ幸いです。

中東遠総合医療センターの受診について

病状が落ち着いているときの投薬や採血、日常の診療はかかりつけ医が行い、専門的な治療や定期的な検査は中東遠総合医療センターが行います。

受診時には「保険証」、「診察券」、「胃がん術後連携ノート（本誌）」をご持ください。

【予約外の受診】

症状でお困りの際は、予約外受診も受付けています。中東遠総合医療センター消化器外科外来に電話でご相談ください。

夜間・休日で緊急を要する場合は、「救命救急センター」で対応させていただきます。

電話番号：0537-21-5555(代表)

- ◆定期受診は5年目まで
- ◆定期受診日以外でも必要があれば受診



MEMO

お名前

様

かかりつけ医（診療所の名称）

（電話

— —)

中東遠総合医療センター 消化器外科

担当医

電話：0537-21-5555（代表）

受付時間 8:30～17:00まで（平日のみ） 休診日 土・日・祝・年末年始（12/29～1/3）

